

☆しつけの前に大切なこと：基本的信頼感

親が子どものしたいことや思いを「そうしたいんやねえ」と受けとめることで、子どもは安心感をもち、親子の信頼関係が育まれていきます。親は「何があっても私はあなたを守ってあげる」というまなざしと気持ちを持ち続けることが大切です。しつけはその土台にあります。

しつけは、生活習慣や社会性を身につけたり、事故を予防するためのものです。成長に合わせて、できることの範囲も広がっていきます。

「これでもできるようになった」と子どもの成長を共感することが大切です。



☆人間として大切なこと：良いこと・悪いこと

- * あいさつをすることや良いことを伝えるとともに、危険なことやしてはいけないことをきちんと伝えましょう。
- * 子どもはいつも親の背中を見ています。見られていることを意識しましょう。



☆自分の身を守るために必要なこと：事故防止

- * 自分の命を、けがや事故から守ることは大切なことです。子どもは、小さなすり傷や切り傷を体験しながら、回避のし方を身につけていきます。
- * “事前に予測できることは可能な限り予防する”ための、知識や技術を教えることも大切です。

相談窓口

「京(みやこ)あんしんこども館」

場所：中京区釜座通丸太町上る梅屋町174-3

電話：231-8002(代表)

☆生きていくために必要なこと： 生活習慣、社会(集団)の中でのマナー

- * あいさつや菌みがきなどの生活習慣とあわせて、大勢の中で騒いだり、車内を走り回ったり、レストランでうろうろしたりしない等、社会(集団)の中には守るべきマナーがあることを教えていきましょう。

戸ひとことアドバイス

☆「ほめ方」「しかり方」

- ほめるときは、言葉だけでなく「できた!」という喜びをたくさん分かち合うなどのしぐさや表情、また抱きしめるなどのスキンシップをおりませながら、ほめましょう。
- しかりときは、「その場で・ゆっくり・はっきり・短かく」が大切です。また、子どもの言葉に注意深く耳を傾け、子どもの話から思いを受けとめながら繰り返す、根気よく、それはなぜいけないかを分かりやすく説明しましょう。

それでいいよ だいじょうぶ

社会のルールはどう教える？

好きなこと、したいことだけするのが
このころの子どもです。

そんな子ども同士の「やりたい！」がぶつかると

泣いたり泣かせたり、まわりを困らせたり。

こんなとき、楽しく遊ぶためには

「じゅんばんこ」「かわりばんこ」という

“約束ごと”があるのを教えてくれるのが、
年上のお友だちやまわりのおとな。

3～5歳になれば世の中にはいくつかの
“約束ごと”があるんだなあということも
少しずつ理解できるようになります。

自分以外にもたくさんの人がいるんだなあ
ということも、わかります。

自分のやりたいことだけ通してしまったり、
まわりの人が困るのもわかってきます。

教えるときは、子どもが守れそうな“約束”の
範囲を少しずつ広げていくのがコツ。

それは同時に“責任”を伝えていくことにもなります。



そして、教えてあげたい“約束ごと”の
いちばんはいのちを大事にすること。

道路から飛び出したときや

お友だちをたたいたときは、

きっぱり「いけない」とその場で

はっきり、何度でも言い聞かせて
あげましょう。

子どもはまわりの人を見ながら
育っていきます。

まずは親自身がルールを守ること、
これもたいせつです。

それでいいよ だいじょうぶ
— 子どもの暮らしを応援する本
(作成：財団法人 母子衛生研究会
発行：母子保健事業団 より)

番外編 ～外遊びをしましょう～

外遊びで思い切り体を動かすことは、心・知・体の育ちを促し、「社会性」「人との関係」を培う機会になります。

鬼ごっこ、影ふみなどの外遊びは、頭の中で考え、判断したことを実行しようとする能力を鍛え、同時に脚力、腕力など、運動機能の基礎を形成します。また、公園に行けば、遊びながら筋力をつけられる遊具がありますから、どんどん外で遊びましょう。

*公園の遊具で遊ぶときは大人は子どもから目を離さないようにしましょう。

